

平成19年度 第2回武道研究会報告

英国の大学体育と武道—ダービー大学における教育課程への導入の試み

平沢信康*

平成19年度の第2回目の武道研究会は、在外研修のために本学に滞在中であった英国の大学講師チャールズ・スプリング氏に講師担当を依頼し、2007年6月8日、205教室で開催のはこびとなった。

1962年生れの Charles Spring 氏は、2000年にバーミンガム大学 Birmingham University で観光経営学の修士号 MA in Tourism Business Administration を取得し、現在、イギリス中部にあるダービー大学 University of Derby が新設したバクストン Buxton 校の Senior Lecturer としてスポーツマネジメントと武道を教えている若手研究者である。

氏は、空手とキックボクシングのそれぞれにおいて3段、黒帯の腕前で、アマチュア武術連盟のメンバーでもある。空手はイングランドのために戦ってきており、キックボクシングは18戦無敗とのことである。

スプリング氏は、一昨年と今年の夏、武道による攻撃的な行動の低減に関する研究を目的としてフィンランドにおいて客員講師となって論文を執筆し、同国では高齢者にも武術を教えた、という。そのほか、ヨーロッパ各地からイングランドに集まった視覚障害をもつ10代の若者にサマーキャンプで護身術を教えたこともあるなど、多彩な活動経験を有する。

今回、縁あって本学の学術共同研究員として受け入れられ、2007年5月21日から6月16日まで滞在して、我が系の濱田初幸准教授の指導の下に、武道関係のカリキュラム資料を収集しつつ、柔道部員との交流も図った。

武道研究会における「英国の大学体育と武道

ダービー大学における教育課程への導入の試み」と題する氏の発表は、パワーポイントを使用したプレゼンテーションで、冒頭、英国の地図をスクリーンに示して、大学の所在地および人口、大学の歴史を概説することから始められた。

ダービー市は、有名なマンチェスターやリバプールにちかい英国中央部の都市で、人口は約25万人とのことである。ダービー大学は、1991年に大学としての認可を受け、セメスター制度が採用されており、今日2万5千人の学生が在籍する。キャンパスには、シェイクスピア劇場や野外スポーツ施設もあるという。

バクストンは内陸部の高地にあり、イングランド地方で最も標高の高い町（標高約300m）で、人口は約2万5千人である。

バクストン校は、ダービー大学の1学部を構成するものとして、今世紀に入り4,200万ポンドを用い、病院であった敷地を改修して開設された高等教育機関である。2006年2月に催されたキャンパス中央のドーム型講義棟の開所式には、チャールズ皇太子が参列し、セレモニーが挙行された。

同校は3つの異なるグループから成っている。すなわち、Tourism, Leisure, Recreation and Countryside Management Hospitality, Events and Spa Management Further Education が、それぞれである。第3のコースは16~18歳を対象とする課程で、日本で言えば高校生向けの、いわば後期中等教育プログラムである。

同校の学生数は、約2千人である。学生たちは、1年間に120単位を取るようになっており、各学期に通常60単位を取得する。モジュールという学

*伝統武道・スポーツ文化系 主任

習の纏まりがあり, 1 モジュールは普通15単位からなるが, なかには30単位のものもある。通常, 8 モジュール×15単位 = 120単位となる。

同校の高等教育を担当するセクターの教員の階層構成は, 学部長 学部長補佐 研究主任 上級講師 講師・助手となっている。

興味深い特徴は, 同校が, ヨーロッパで初めて, 「武道理論と実際」の単位を授与できる資格を認可された大学である点である。アクレディテーションは2006年1月に判定が開始された, とのことである。

ダービー大学バクストン校が提供している武道カリキュラムは, 純理論と実践からなり, 理論的背景 (歴史を含む) とコーチングとの2区分から構成されているが, 今なお進化発展中であり, 目下, 世界中から関心を寄せられているという。

バクストン校における武道の教育課程は, 年次ごとに以下のようになっている。

1 年次および2 年次

1. 武道の理論的理解
2. コーチング入門
3. 解剖学および生理学 (30単位)
4. 研究入門
5. 武道とメディア 神話と伝説
6. 武道の哲学
7. 武道における学生プロジェクト
8. 研究方法
9. 武道のためのスポーツコーチング

3 年次

1. 武道哲学の批評
2. 武道における子どもの指導
3. 独立研究
4. 文化的多様性のマネジメント
5. 倫理 Ethics

現在は, あいにく大学の道場が狭隘で, 高校の体育館を使用する場合もあるが, 数年後にはスポーツセンターを新設する計画である。

ちなみに同校では, 学部のアイデンティティから, 便宜上, 武道を「レジャー・レクリエーション」の範疇のなかに収めて理解し, 教育実践しているとのことである。

なお, 「黒帯アカデミー」なる団体が英国にはあり, 黒帯を金で売っているケースもあるとのことである。

勤務先では大学院レベルのプログラムリーダーを務めている氏であるが, 将来, 提供するプログラムのなかに柔道をも導入し, プログラム内容を拡充したいとのことであった。

最後に, そうしたプランとの関係で, ちかい将来, 濱田准教授を招聘したいとの希望が述べられ, また礼法を正しく教えていきたいとの抱負も吐露された。